

2019 年卒
Vol.06

5 月 1 日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2019 学生モニター調査結果 (2018 年 5 月発行)

企業の採用広報開始から 2 カ月。学生の就職活動はどのように進んでいるだろうか。5 月 1 日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、選考解禁前にもかかわらず、内定率は 4 割を超えていることがわかった。

また、選考解禁前の気持ちを詠んだ就活川柳の佳作も紹介したい。

1. エントリー状況

- 一人あたりのエントリー社数の平均は 28.5 社。前年同期調査 (35.9 社) より 7.4 社少ない
- エントリー企業は、「3 月より前のインターンシップなどで知った企業」の割合が年々増加

2. セミナー・会社説明会への参加状況

- 企業単独セミナーへの参加社数は 12.0 社。前年 (14.1 社) を下回る
- 4 月の 1 カ月間の参加社数は平均 2.3 社にとどまる

3. 選考試験の受験状況

- エントリーシート提出社数の平均は 11.4 社。前年 (13.4 社) を 2 社下回る
- 選考試験の平均受験社数は、筆記 7.8 社、面接 5.0 社。過半数 (54.3%) が最終面接を経験

4. 5 月 1 日現在の内定状況

- 内定率は 42.2%。前年同期実績 (37.5%) を 4.7 ポイント上回る
- 就職活動を終了したのは全体の 14.2%。継続者は 85.8%

5. 内定を得た企業の属性

- 内定業界は「情報処理・ソフトウェア」「調査・コンサルタント」「建設・住宅・不動産」の順
- 内定企業の従業員規模は「1,000 人～4,999 人」29.2%、「5,000 人以上」25.5%。
月を追うごとに大手企業の占める割合が増加

6. 就職活動継続学生の動向

- 継続者の志望業界 1 位「銀行」、2 位「水産・食品」、3 位「官公庁・団体」
- 活動の中心は「業界トップ企業」20.5%、「大手企業」27.1%。大手狙いの学生が計 47.6%
- 就職活動を終えたい時期は「6 月前半」「6 月後半」が同率で最多 (27.3%)

7. 就活川柳

- 全 522 作品から、佳作 11 首を紹介

調査概要

調査対象 : 2019 年 3 月に卒業予定の大学 4 年生 (理系は大学院修士課程 2 年生含む)
回答者数 : 1,197 人 (文系男子 363 人、文系女子 372 人、理系男子 303 人、理系女子 159 人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2018 年 5 月 1 日～7 日
サンプリング : キャリタス就活 2019 学生モニター (2016 年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

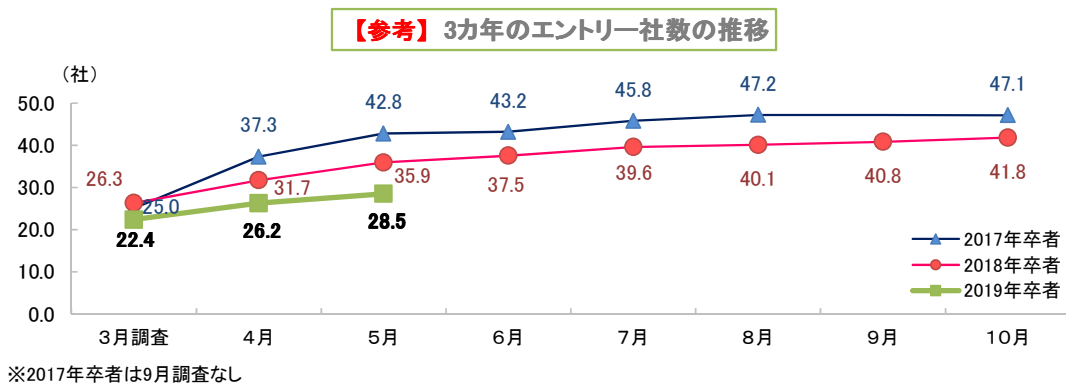
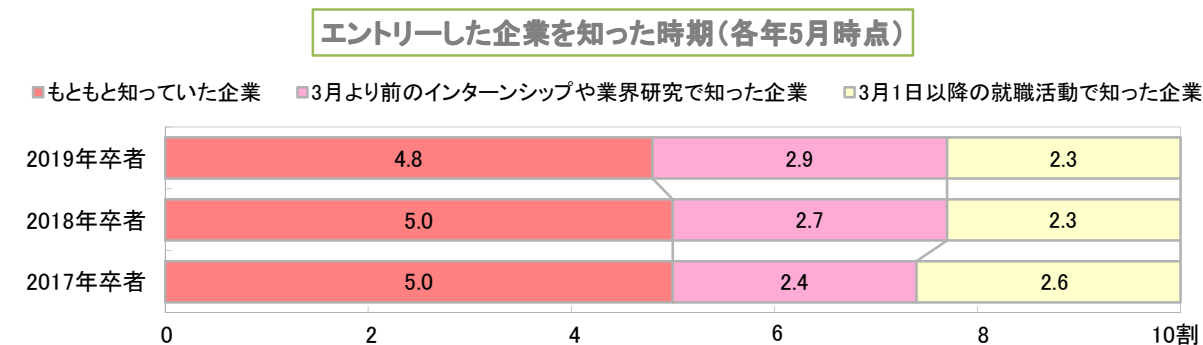
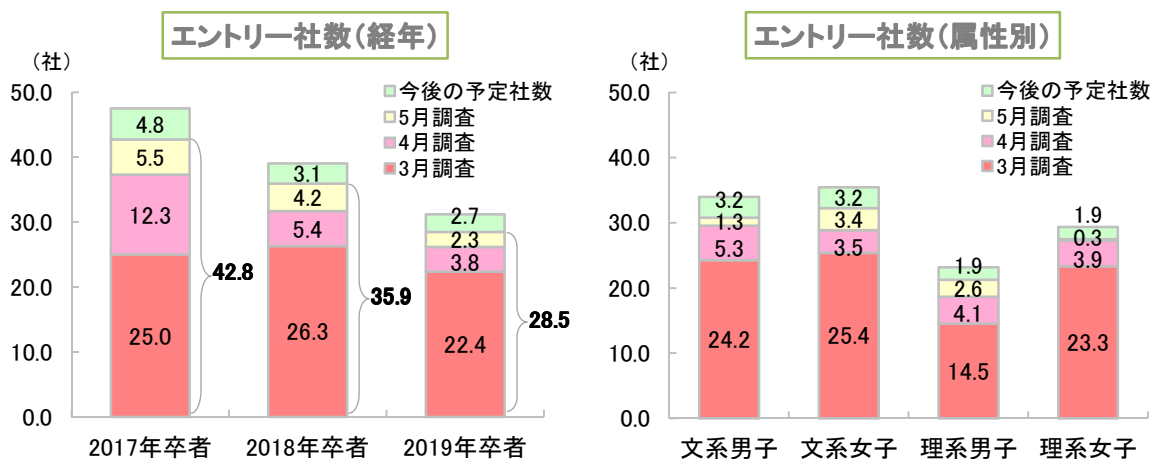
1. エントリー状況

採用広報解禁から2カ月が経過した5月1日時点での就職活動は、どのように展開しているだろうか。前回調査（今年4月）および前年度調査との比較を中心に、全体的な活動状況を確認してみたい。

まず、一人あたりのエントリー社数の平均は28.5社。4月調査の26.2社から2社あまりの増加にとどまり、前年同期調査（35.9社）を7社以上、下回った。文系より理系で社数が少ないが、とりわけ理系男子で少ないのが目立つ（21.2社）。

一人あたりのエントリー社数は年々減少する傾向が続いており、2年前の2017年卒者（42.8社）と比べると3割以上減少している。

エントリーした企業を知った時期を経年で見ると、「3月より前のインターンシップや業界・企業研究などで知った企業」の割合が年々増えている（2.4割→2.7割→2.9割）。学生の就活解禁前の活動が活発になった結果、早期に接点を持った企業にエントリーする割合が増しているのだろう。



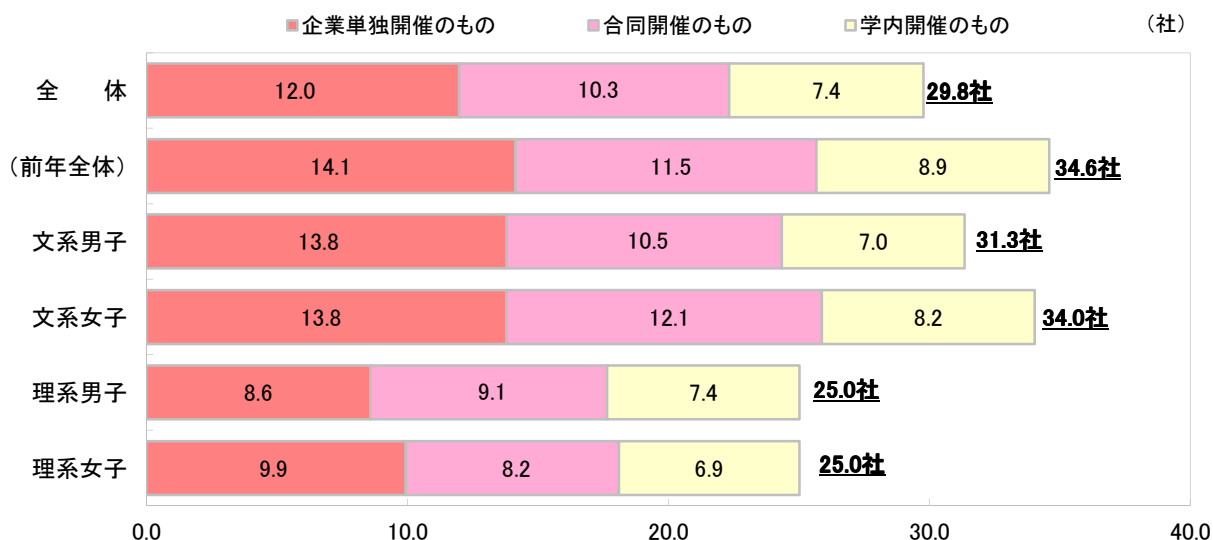
2. セミナー・会社説明会への参加状況

セミナー・会社説明会のこれまでの平均参加社数はのべ29.8社で、前年同期(34.6社)を下回る。このうち企業単独開催のものは12.0社で、前年同期(14.1社)より2.1社少ない。エントリー社数が7社以上減っているのに比べれば減り幅は少ないが、4月調査(9.7社)からの1カ月間で2.3社増にとどまった。

採用の日程ルールは変わらないが、企業が前年よりも選考時期を前倒す傾向が見られる。当社が3月下旬に実施した企業調査(有効回答648社)では、全体の7割強(76.5%)が4月までに選考(面接)を開始すると回答していた。そうした企業側の動きに合わせて、4月はすでにエントリーしていた企業の面接準備に時間を費やす学生が多く、新たな企業のセミナーに参加するという行動に結び付きにくかった可能性がある。

なお、学内開催のもの(学内セミナー)、合同開催のもの(合同企業セミナー)ともに、参加社数は前年を1社あまり下回っている。

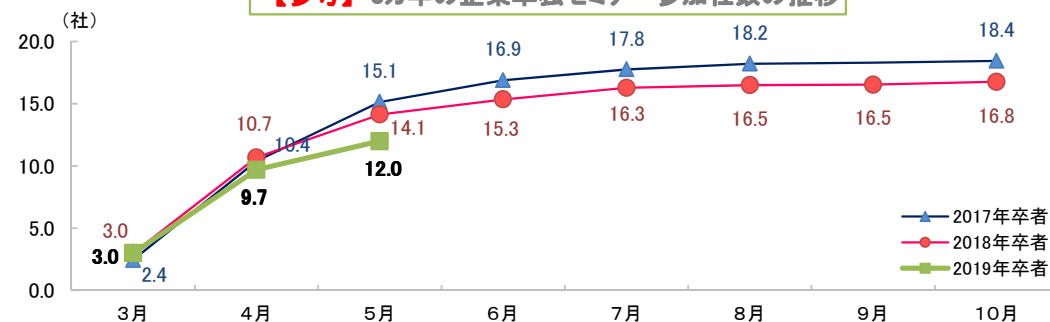
セミナー・会社説明会参加社数と内訳



合同開催・学内開催参加回数

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
合同開催セミナーへの来場	2.7	2.9	2.9	3.2	2.3	2.1
学内開催セミナーへの来場	2.7	3.3	2.7	3.2	2.4	2.5

【参考】3カ年の企業単独セミナー参加社数の推移

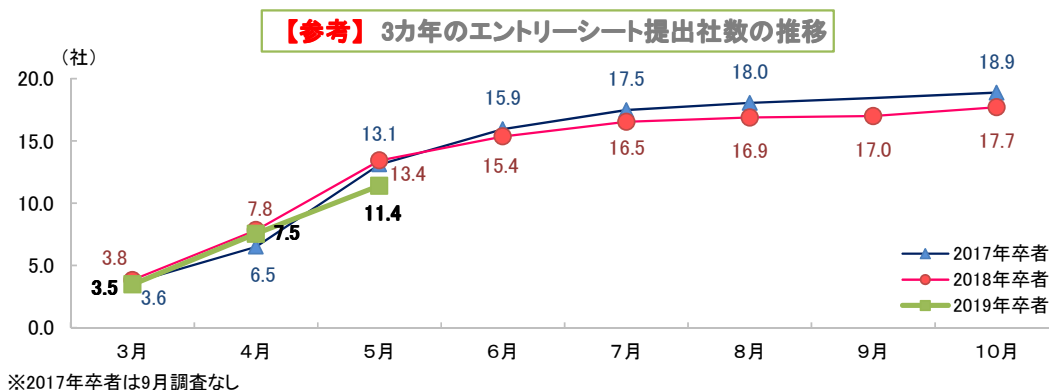
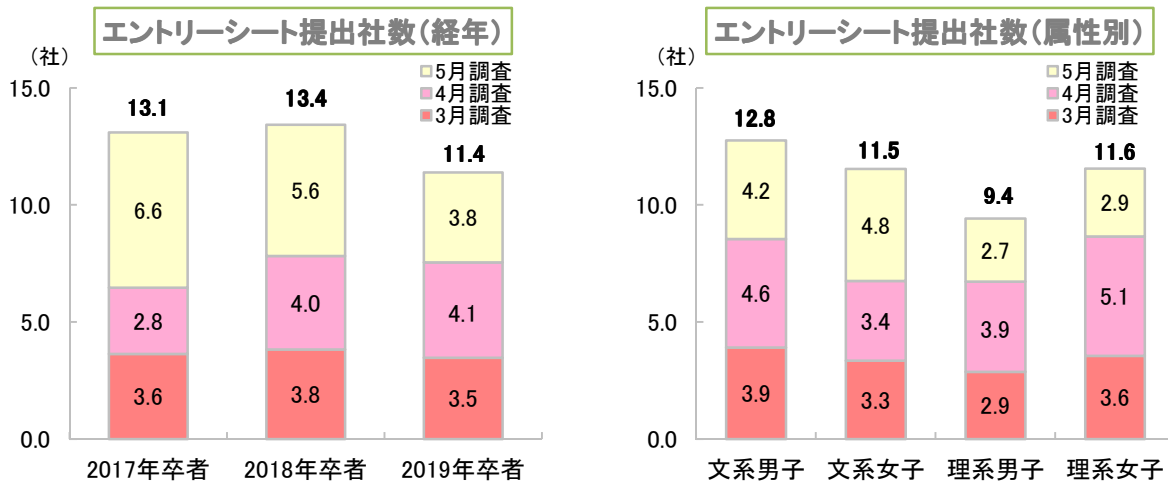


※2017年卒者は9月調査なし

3. 選考試験の受験状況

5月1日時点で学生が企業の選考にどの程度進んでいるのか、その社数を確認してみよう。まず、エントリーシート (ES) の提出社数の平均は11.4社。4月調査時点では前年と同水準だったが、この1カ月の伸びが鈍く、前年同期 (13.4社) を2社下回った。筆記試験に関しては、前年より1.1社少ないが (8.9社→7.8社)、その後の面接社数は前年とほぼ同水準を保っている。

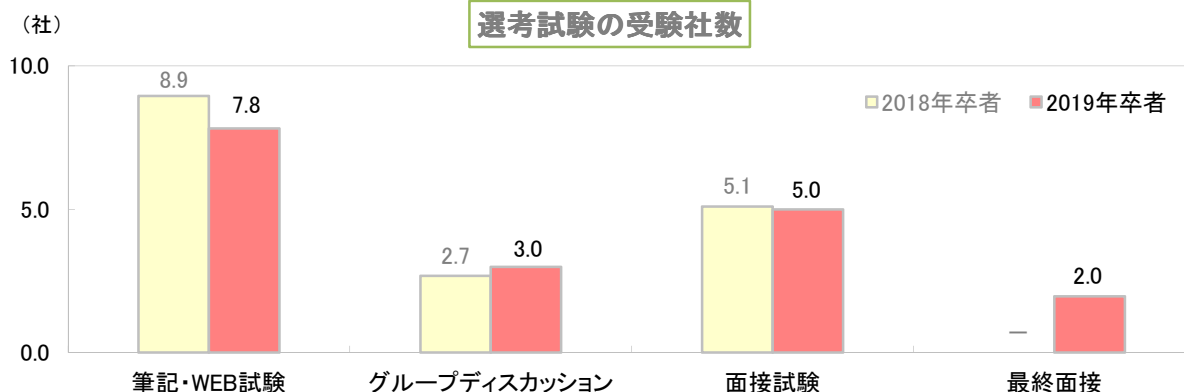
なお、調査時点で最終面接を受けた経験を持つ学生は過半数に達しており (54.3%)、受験社数の平均は2.0社。



選考試験の受験状況

	筆記・WEB試験	グループディスカッション	面接試験	最終面接
受験した者の割合 (%)	92.4	64.3	87.5	54.3

選考試験の受験社数



※それぞれ上記の受験者を分母に平均社数を算出

※「最終面接」は、前年調査なし

4. 5月1日時点の内定状況

就職活動スタートから2カ月が経過し、内定を得る学生は一気に増えた。5月1日現在の内定率は42.2%で、先月調査(18.8%)からの1カ月で23.4ポイント増加した。前年同期(37.5%)に比べ4.7ポイント高い水準だ。5月の内定率が4割台をマークするのは2015年卒者以来4年ぶりだが、当時は選考解禁が今より2カ月早い4月1日だったことを考えると、今年いかに早いペースで内定が出ているかがわかる。内定率は文系より理系で高く、男女とも5割に近い数字をマークした(理系男子49.8%、理系女子47.2%)。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは29.5%。内定者のうち66.3%は就職活動を続けていると回答した。

5月1日現在の内定状況

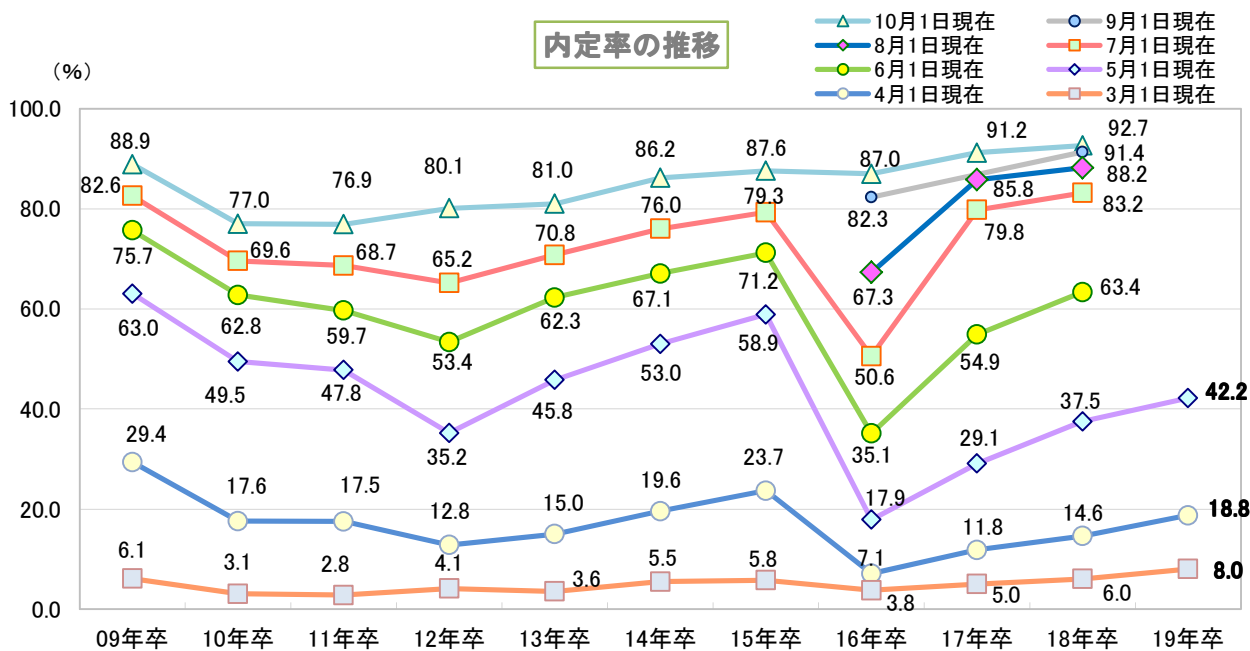
*「内定」には、内々定を含む (%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	
内定あり	42.2 (37.5)	38.3 (33.9)	37.6 (33.6)	49.8 (44.2)	47.2 (42.3)	
内定なし	57.8 (62.5)	61.7 (66.1)	62.4 (66.4)	50.2 (55.8)	52.8 (57.7)	
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	29.5 (27.8)	19.4 (18.3)	21.4 (25.2)	42.4 (36.3)	37.3 (33.8)
	活動は終了したが複数内定保持	3.6 (2.9)	3.6 (2.8)	2.9 (0.8)	4.0 (3.4)	4.0 (5.6)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.6 (0.0)	0.0 (0.0)	0.7 (0.0)	1.3 (0.0)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	66.3 (69.3)	77.0 (78.9)	75.0 (74.0)	52.3 (60.3)	58.7 (60.6)

(社)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均	1.6 (1.5)	1.7 (1.6)	1.6 (1.3)	1.7 (1.6)	1.6 (1.6)

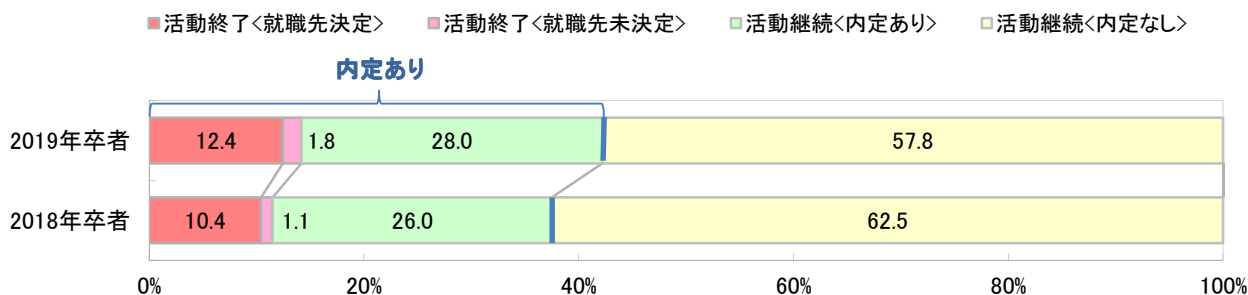
※ () 内は前年(5月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~19卒は6月 ※15年卒以前は8月、9月のデータはなし

内定者は4割を超えるものの、モニター学生全体を分母にとると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は12.4%。複数内定を保留しているなど未決定である者（1.8%）を合わせても1割台にとどまる（計14.2%）。残りの85.8%は活動を継続しており、内定の有無によらず多くの学生にとって山場はこれからだ。

学生モニター全体の活動状況



5. 内定を得た企業の属性

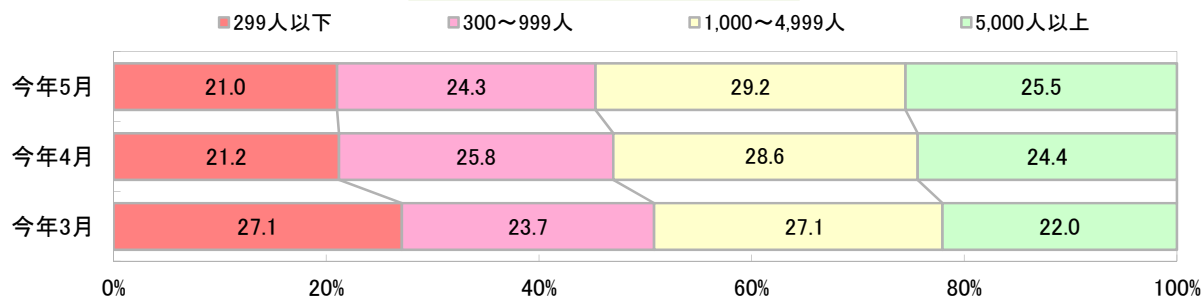
5月1日現在で内定を得ている学生に、内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた（全40業界。複数回答あり）。1位は先月に続き「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」（29.3%）。先月（22.4%）より約7ポイント増と、集中度が高まっており、この1カ月で多くの内定が出たことがわかる。2位は「調査・コンサルタント」（12.5%）、僅差で「建設・住宅・不動産」（12.3%）が続く。これらの業界は文理ともに順位が高く、採用意欲の強さと内定出しの早さがうかがえる。

内定を得た企業の従業員規模の比率を出し、この3カ月の推移を出してみた。月を追うごとに「1,000～4,999人」「5,000人以上」の割合が増加しており、大手企業において、内定出しが進んでいる様子が見える。

内定を得た業界（上位5業界）

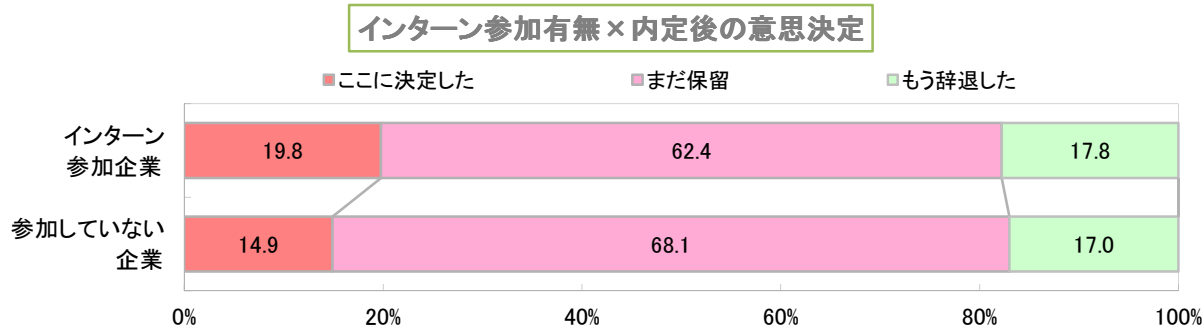
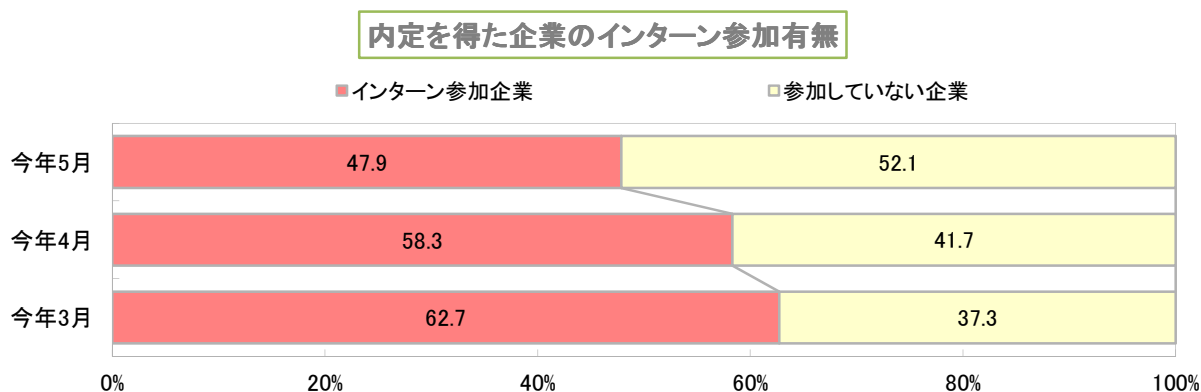
順位	全 体		文 系		理 系	
	割合	業界	割合	業界	割合	業界
1	29.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	30.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	28.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト
2	12.5	調査・コンサルタント	13.3	調査・コンサルタント	15.0	建設・住宅・不動産
3	12.3	建設・住宅・不動産	13.3	情報・インターネットサービス	13.3	電子・電機
4	10.9	情報・インターネットサービス	10.0	建設・住宅・不動産	11.5	調査・コンサルタント
5	7.7	人材紹介・人材派遣	9.3	人材紹介・人材派遣	11.1	医薬品・医療関連・化粧品
	7.7	電子・電機				

内定を得た企業の従業員規模



内定を得た企業のインターン参加経験比率についても、3カ月の推移を見てみた。3月調査では内定企業の6割超(62.7%)がインターンシップに参加した企業だったが、徐々に比率は下がり、この5月調査では5割を下回った(47.9%)。

また、インターンシップ参加有無別に、現時点での就職意思決定状況を比較してみた。選考解禁前ということもあり、ともに「まだ保留」が6割を超えているが、「ここに決定した」の割合に差が見られる。インターンシップ参加企業では2割近くに上るが(19.8%)、非参加企業では14.9%にとどまる。インターンシップ参加企業からの方がより早い時期に内定を得ていたことが、現時点では影響しているのだろう。インターンシップと意思決定の関連性については、就職戦線が一段落した後改めて検証してみたい。



■現時点での就職活動難易度について

【やさしいと感じる声】

- 想像していたよりも早く、行きたいと思える企業から内定が出た。 <文系男子>
- なんとなく選考に参加していても内定が出たため。 <文系女子>
- 選考で落とされたことがなく、内定も順調にもらえている。 <理系男子>
- 有名大学でもなく、これと言った経歴はなかったが、4月の初めに内定をもらえた。 <理系女子>

【厳しいと感じる声】

- 受けている企業の選考の都合上、6月まで内定が決まらないので、不安がなくなる。 <文系男子>
- 持ち駒にしようとして軽い気持ちで受けた企業から面接で落とされて、選考に進んでいる企業の数かなり減ったから。 <文系女子>
- 1次面接で落ちまくっている。 <理系男子>
- 学業との両立で、就職活動が周りより遅れているため。 <理系女子>

6. 就職活動継続学生の動向

内定保持者を含め就職活動を継続している学生 (全体の 85.8%) の動向を見ていこう。

現時点での志望業界を 40 業界の中から 5 つまで選んでもらったところ、最も多いのは「銀行」(16.2%) で、以下「水産・食品」(15.6%)、「官公庁・団体」(15.2%) と続く。

「銀行」は前年まで長らく選考解禁月までほぼ毎月 1 位を独占していたが、今年は月を追うごとに順位を下げてきた。4 月調査では 7 位だったが、選考解禁を目前に首位に返り咲いた格好だ。一方で、序盤に順位が高かった IT 業界は順位を下けている。「情報処理・ソフトウェア」は先月調査で 1 位だったが、今回 4 位に下がった。

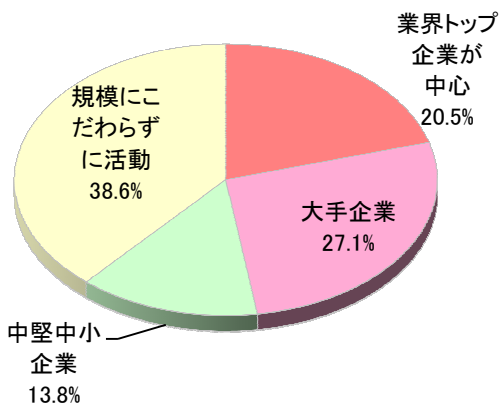
就職活動継続者の志望業界 (上位 10 業界)

		(%)									
	全 体	文系男子		文系女子		理系男子		理系女子			
1	銀行 ①	16.2	銀行	23.5	銀行	21.0	素材・化学	23.0	水産・食品	40.8	
2	水産・食品 ⑥	15.6	運輸・倉庫	19.8	官公庁・団体	16.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	19.7	医薬品・医療関連・化粧品	33.3	
3	官公庁・団体 ②	15.2	官公庁・団体	17.7	マスコミ	15.9	電子・電機	18.8	素材・化学	30.0	
4	素材・化学 ④	14.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	14.7	運輸・倉庫	14.9	自動車・輸送用機器	18.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.3	
	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ⑤	14.8	情報・インターネットサービス	14.7	情報・インターネットサービス	12.9	情報・インターネットサービス	17.8	建設・住宅・不動産	10.8	
6	運輸・倉庫 ⑦	14.0	商社 (総合)	14.3	保険	12.5	医薬品・医療関連・化粧品	16.0	官公庁・団体	10.8	
7	情報・インターネットサービス ⑧	13.7	調査・コンサルタント	14.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.9	機械・プラントエンジニアリング	16.0	調査・コンサルタント	9.2	
8	医薬品・医療関連・化粧品 ③	12.3	電子・電機	11.9	建設・住宅・不動産	11.9	水産・食品	13.6	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	8.3	
9	建設・住宅・不動産 ⑩	11.7	建設・住宅・不動産	11.3	水産・食品	11.9	建設・住宅・不動産	12.7	通信関連	7.5	
10	電子・電機 ⑩	10.9	商社 (専門)	11.3	ホテル・旅行	10.2	官公庁・団体	11.7	農業・林業・鉱業	7.5	
									銀行	7.5	

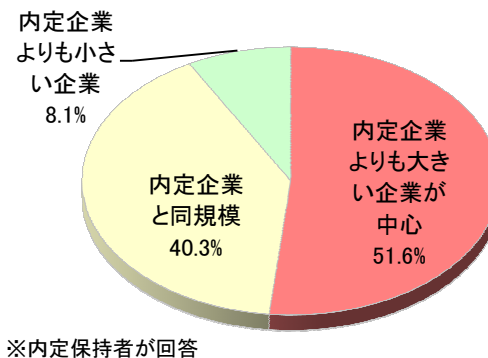
※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

就職活動の中心としている企業規模を尋ねたところ、「業界トップ企業」20.5%、「大手企業」27.1%で、大手狙いの学生が計 47.6%に上った。さらに、内定を持ちながら就職活動を続けている学生に、内定保持企業と比較してもらえると、「内定企業よりも大きい企業が中心」が 51.6%と過半数。大手企業の選考待ちの状態である学生が多いことがうかがえる。

就職活動の中心とする企業規模



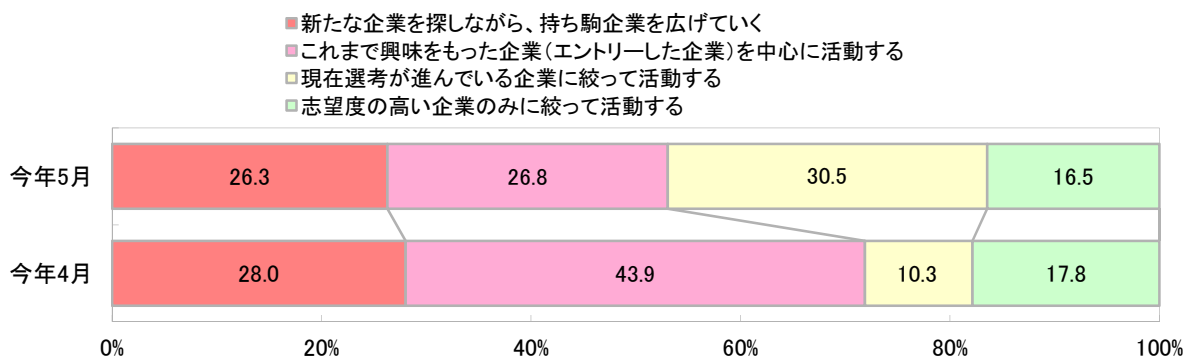
就職活動の中心とする企業規模 ※内定企業との比較



今後、就職活動をどのように進めていくつもりかという方針・戦略を尋ね、先月調査(4月)と比較してみた。4月調査で最も多かったのは「これまでに興味をもった企業(エントリーした企業)を中心に活動する」(43.9%)だが、今回大きく割合を下げ(26.8%)、「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」が大きく増加した(10.3%→30.5%)。この1カ月で選考が進んだ企業が多く存在し、また学生側も選考に乗っている企業に焦点を定めて活動するようになった様子が見て取れる。

一方で、「新たな企業を探しながら、持ち駒企業を広げていく」という学生の割合は意外にもほぼ変わらず(28.0%→26.3%)、活動継続者の4人に1人以上が、新しい企業を探す意欲を持っていることがわかった。今後のエントリー予定社数は平均2.7社、企業単独セミナー参加予定社数は2.1社だが、未内定学生に限ると、それぞれ3.4社、2.6社に増える。

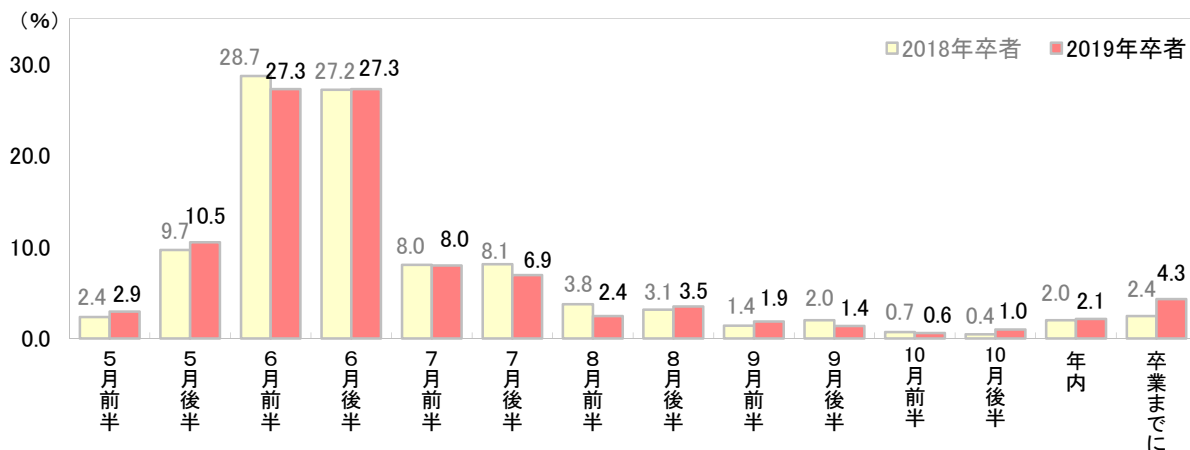
今後の就職活動の方針・戦略



	全体	内定あり	内定なし	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
今後のエントリー予定社数	2.7	1.3	3.4	3.2	3.2	1.9	1.9
今後の企業単独セミナー参加予定社数	2.1	1.1	2.6	2.4	2.4	1.5	1.6

就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期は、「6月前半」と「6月後半」がともに27.3%で最も多い。6月前半と後半を合わせると54.6%になり、活動継続学生の半数強が「6月が正念場」と捉えている様子が見える。なお、6月後半までを合計すると68.0%になり、7割近くが6月末までに就職活動を終了したいと考えている。

就職先を決定して、就職活動を終了したい時期



7. 就活川柳

ここまでの就職活動で感じたことを、思いつくまま川柳に詠んでもらった。全 522 作品が寄せられた中から、ユーモアや風刺の効いた一例を紹介したい。

「売り手市場」と言われる就職戦線での複雑な思いや、内定獲得へのプレッシャーなど、どれも就活生の率直な心情が表れている。

